

研究・調査報告書

報告書番号	担当
576	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Lipid hydroperoxides in human plasma after ethanol consumption. エタノール摂取後のヒト血漿の脂質ヒドロペルオキシド	
執筆者	
Asano M, Nushida H, Adachi J, Nagasaki Y, Nakagawa K, Kuse A, Ueno Y.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Leg Med (Tokyo). 2009 Apr;11 Suppl 1:S223-5.	
キーワード	
エタノール、ヒト、血漿、脂質ヒドロペルオキシド	
要旨	
<p>酸化ストレスはアルコール性肝障害発症の原因となる。本研究の目的は健康なヒトが適量のエタノールを摂取する時に生じる酸化ストレス量を評価することである。5 分間に 100ml の速度で 400ml の日本酒を健康なボランティアに飲酒させ、飲酒前と飲酒後 1 時間と 3 時間後に血液をボランティアから採取した。これを用いて、アルデヒド脱水素酵素 2 の遺伝子型および血中エタノール、トータル脂質ヒドロペルオキシド (LOOH) とコレステロールヒドロペルオキシド濃度を調べた。この結果、血漿 LOOH が飲酒 1 時間後に有意に増加したことがわかった。血漿ではコレステロールヒドロペルオキシドは飲酒の前後とも検出されなかった。さらに LOOH とエタノール摂取の間には相関がなかった。本研究によって、健康なボランティアにおける 1 回の中程度のエタノール摂取では、一時的に血漿 LOOH が増加するが、過剰な血漿 LOOH 化合物は短期間で除去されることが示唆された。</p>	